

いちご炭疽病防除のポイント

R7.6

香川県東讃農業改良普及センター

- ① 育苗圃の環境作り : 発病しやすい環境から遠ざける
- ② 定期的な薬剤散布 : 苗を予防剤で守り続けて感染リスクを下げる
- ③ 早期発見・早期除去 : 症状を理解し、日々観察を

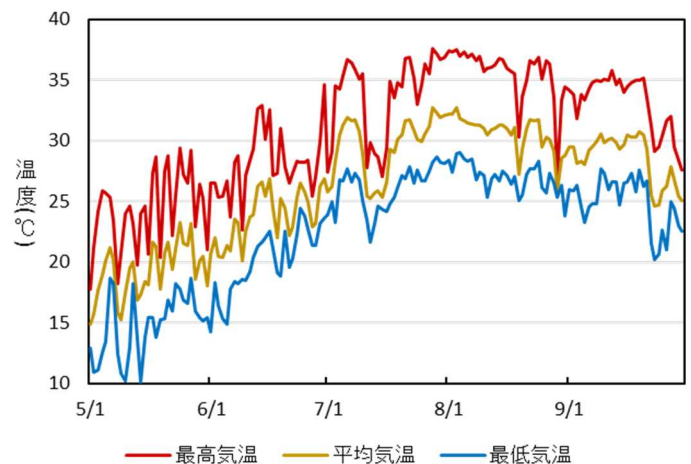
① 育苗圃の環境作り

1) 菌を育苗圃に持ち込まない

- ◆ 残渣や枯死株は速やかに処分し、圃場内や育苗ハウス近傍に放置しない。
- ◆ プランター等を再利用する場合は、使用前に残渣や土が残らないよう洗浄し、資材消毒剤で消毒する。
- ◆ 本圃で発病していた場合、育苗圃に入る前に手を洗う等、本圃からの持ち込みに注意する。
- ◆ 苗を地面や水が滴る場所に置かない。定植まで棚の上で管理する。やむを得ず地面に置く場合は、コンテナやひっくり返したトレイ等の上に置き、地面に直置きしない。

2) 発病しやすい環境からできるだけ遠ざける

- ◆ 菌糸は 15～38℃で生育し、適温は 28℃前後
→ 遮光や風通しの改善により高温を避ける。
- ◆ 葉の濡れ時間が長いほど発病しやすい→灌水後
速やかに乾くよう、妻面を開ける、防虫ネットを外す等、風通しを改善する。夕方に灌水する場合は、夜までに葉がしっかり乾く時間に行く。
- ◆ 底面給水等で葉濡れの機会を減らすことも有効。
- ◆ 多肥、培土の多湿で発病しやすくなる
→ 適正な肥培管理、水管理も重要。



参考：2024 年高松市の気温。

5 月には既に菌糸の生育適温に達する日が見られた。

② 定期的な薬剤散布

※農薬使用時には毎回ラベルを確認し、使用基準を順守すること。受け苗は親株からの切り離し後から使用回数のカウントを開始する。収穫前日数の長い薬剤は、使用時期に注意する。

- ◆ 5 月には防除を開始する。頭上灌水に伴う水撥ねで感染株から周辺株へと広がる。予防剤を用いたローテーション防除により葉を保護する。
- ◆ 散布後に展開した葉には薬剤が付着していないため、防除頻度は葉の展開スピードに合わせる。
高温期は、週に 1 枚以上新葉が展開するため、週一回は薬剤散布することが望ましい。
- ◆ 県内で広く耐性菌が確認されている薬剤もある。薬剤選定の際には、病害虫防除所の耐性菌検定の結果を参照する。

【参考】香川県病害虫防除所 web ページ (<https://www.pref.kagawa.lg.jp/byogaichuboj/>)

防除に関する情報>感受性検定>イチゴ炭疽病の薬剤感受性検定結果について (令和 6 年度)

③ 早期発見・早期除去

- ◆水やりや管理の際に株を確認し、発病株を発見次第、肥料袋等に封入して速やかに圃場外に持ち出す。
- ◆発病葉を除去してもクラウン部に感染している場合が多いため、発病株は株ごと除去する。
- ◆発病株が複数ある場合は除去作業をまとめて行い、できるだけ健全株に触れないようにする。
- ◆発病株の周辺にある株も水撥ねにより移っている可能性があるため、可能であれば隔離する。隔離できない場合は、除去した箇所がわかるように印をつけ、周辺を重点的に経過観察する。
- ◆雨漏りや雨の吹込みがあった時は、該当箇所から発病しやすい。また、台風で閉め込んだ後も発病リスクが高い。しばらくは特に慎重に観察する。
- ◆代表的な症状は以下のとおり。他にも通常と様子が異なる株が見られたら念のため隔離する。
- ◆疫病も類似の症状を示すが、芯からの褐変や、根の変色（黒～褐色）が見られた時は、疫病が疑われる。

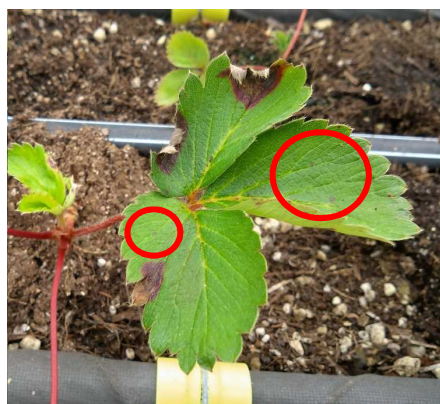
◆小型病斑



多発した状態



薄くて見えにくい場合もある

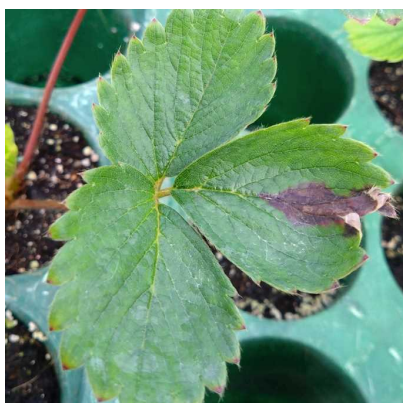


大型・小型病斑の同時発生

◆大型病斑



枯れ込みの中に橙色～肌色（鮭肉色）の菌が吹いてくる



※病害虫防除所 web ページより引用

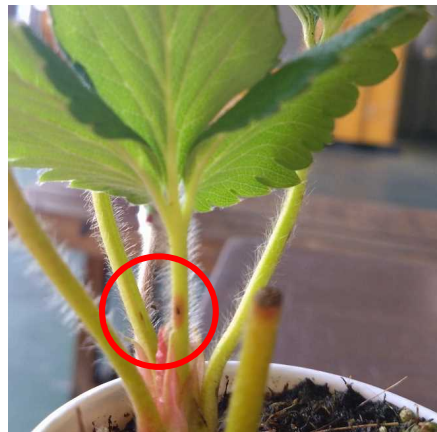
葉の中部に発生した場合



◆葉柄・ランナー



上下がすぼんだ紡錘状の黒い病斑を作る
橙色～肌色（鮭肉色）の菌が吹いてくる



初期の小さい病斑
黒変部が広がってゆき、最後には折れる

◆萎凋症状（しおれ）



クラウンが詰まって水を吸えなくなる。クラウン
を切ると断面がオレンジ～褐色に変色している。

◆クラウン部の黒変・褐変（根は白い）



クラウン断面



④ 本圃の消毒

- ◆特に昨年発病した圃場では本圃の土壤消毒を徹底する。
- ◆夏季に1か月以上伏せ込み期間をとれるよう計画的に準備する。
- ◆残渣が残っている部分は消毒されにくいので、特に発病株はできるだけ根やクラウンが残らないよう取り除く。
- ◆ハンモック、発砲ベッドの場合は、ピートバックと比較して温度が上がりにくいと考えられるため、被覆期間を長めにとる、透明のビニールを使用するなど地温確保に努める。

⑤ 挿し苗時の注意事項

- ◆採苗前に株を整理し、殺菌剤を散布する。発病圃場からは採苗しない。罹病したランナーがあると、挿し苗作業時水に浸けた時に他の挿し穂に菌が広がるため、健全な挿し穂を用意する。
- ◆採苗後、冷蔵庫内に入れておく期間はできるだけ短くし、長くても1週間までとする。
- ◆遮光資材はあらかじめ設置し、できるだけ圃場内の温度を下げておく。
- ◆活着までの葉水の回数を減らすため、ランナーの切り口を培地や水に挿して吸水させる方法もある。

